



2025年4月11日

各位

会社名 株式会社ポプラ
代表者名 代表取締役社長 岡田 礼信
(コード番号 7601 東証スタンダード市場)
問い合わせ先 取締役執行役員社長室長 大竹 修
(TEL 082-837-3510)

中期事業計画の進捗状況について

当社は、2023年4月13日付で2024年2月期～2026年2月期の3年間の中期事業計画を公表いたしました。つきましては、計画の進捗状況を下記の通りご報告いたします。

記

1. 2025年2月期の状況

2025年2月期指標別の実績対比

	チェーン売上高 (百万円)	店舗数	営業利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)
中期事業計画	35,720	423	277	206
実績	38,455	396	408	376
差異	2,735	△27	131	170

チェーン売上につきましては、雇用環境の改善に伴い個人消費が堅調に推移したことやインバウンド需要の増加に伴い大きく上昇しました。また2024年11月より創業50周年記念企画の販促を実施、弁当やおむすび、サンドイッチなどの50%増量商品が好評となり販売数量が増加したことで、当連結会計年度の既存店ベースの売上前年比は104.4%となりました。

このような状況の中、「ポプラ」「生活彩家」ブランドで施設内に展開する事業の状況につきましては、従前の有人型店舗に加え、スマートフォンサイズの決済端末を設置した小型無人コンビニの展開を推進、ローソン・ポプラ事業については新規出店とフランチャイズ化の促進、販促や催事商品の販売に重点的に取り組むほか、ポプラの看板商品である、お店で炊きたてのご飯を盛り付けるタイプの弁当「ポップ弁」の販売徹底を行い、ポプラグループ全体の安定した収益体制と財務基盤の増強に向けて、中期事業計画に掲げる利益目標の達成に取り組みました。

また、製造・卸部門では、「ポプラ」及び「ローソン・ポプラ」両ブランド店舗向け商品の販売強化に努めるとともに、外部小売事業者向け弁当の販売拡大や介護事業者向けの調理済み冷凍惣菜の製造販売事業に取り組んでまいりました。

特に冷凍惣菜については既存設備での製造上限に達するレベルまで販売が増加、増産に向けて2025年1月10日に新たに大量製造に適した冷凍設備の導入を決議しております。

これらの結果、営業利益は長期事業計画数値を大きく上回る408百万円、当期純利益も376百万円と計画を大きく上回る結果となりました。

[ご参考]

	2024年2月期			2025年2月期			2026年2月期		
	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画	見通し	計画比
チェーン売上高	35,440	35,876	101.2 %	35,720	38,455	107.6 %	36,530	40,465	110.7 %
店舗数	400	388	97.0 %	423	396	93.6 %	440	418	95.0 %
営業利益	217	404	186.1 %	277	408	147.2 %	324	374	115.4 %
親会社株主に帰属 する当期純利益	267	462	173.0 %	206	376	182.5 %	229	248	108.2 %
ROIC	12.1 %	19.4 %		18.2 %	20.6 %		24.0%	16.9 %	

※ROIC=投下資本利益率 計算式：(営業利益×(1-実効税率))÷(株主資本+有利子負債)

以上